

現状	課題	対策案		期待する効果 (達成目標)
<p>1 学力の二極化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆宿題を必ずする2年生は3割 ◆成績上位10人と下位10人の課外学習時間の差は2~3倍 <p>2 時間の有効活用意識の低さを確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆成績上位者の学習時間割合は平均の10P上 ◆成績不振者のスマホ時間は平均より2割多 ◆部活と学習を両立できているのは3割台 	<p>① 生活時間の有効活用</p>	<p>A 生活時間調査の定期実施 ☆提案(4月)→実施(6月~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象は1, 2年生 ・項目は「学習時間」「睡眠時間」「スマホ時間」など ・月末の平日に連続3日間(SHRで配付・放課後回収) ・前日分の調査用紙を翌日回収(これを3日間実施) ・集計結果を懇談等で活用 ・長期休業前に生活日誌を配付(生活時間を自己管理) 	<p>B 生活時間活用法見直しキャンペーン ☆提案(4月)→実施(6月~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活時間調査分析結果を生徒・保護者に配付 ・同時にスマホ有効活用に関する情報も提供 ・分析結果等配付以降の1週間をキャンペーン期間に ・期間に合わせてポスター、blog、twitterで周知 ・調査分析結果や見直し成功例を懇談で活用 	<p>学習以外のスマホ操作時間の縮減 (H29生活時間調査結果を上回る)</p> <p>課外学習時間の増加 (H29生活時間調査結果を上回る)</p>
<p>3 教員の現状認識も様々</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「授業・部活・行事等バランス良い」教員の割合は4割 ◆土曜講習議論を持越し 	<p>② 学習機運の醸成</p>	<p>A 宿泊学習の改善 ☆73期生から実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的の明確化(学習する集団の形成) ・取組内容の一新(自学自習に特化したスリム化) ・教員間でスタンダードの中の位置づけを共有 	<p>B 考査の目標と成果の公表(生徒) ☆提案(4月)→実施(前期第2中間考査~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーマットの作成と提示(各クラスで活用) ・懇談等で適宜活用 	<p>考査成績の向上(H29実績を上回る)</p> <p>関係行事満足度の向上 (学校教育自己診断該当項目でH29以上)</p> <p>保護者の進路関係取組満足度向上 (学校教育自己診断該当項目でH29以上)</p>
<p>4 学力格差解消 自己実現支援</p>	<p>③ 学習環境の整備</p>	<p>A 1年生HR教室へのプロジェクター設置 ☆30年8月末工事終了予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA安全互助会費を活用(30年度総会を経て執行) <p>C ノークラブデーの完全実施など ☆提案(4月)→実施(6月~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部実施日の確認と自主練習の原則禁止 ・昼練の制限(計画的実施と常態化の解消) 	<p>B 朝のSHR改革 ☆73期生から実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、読書、プレゼン(生徒、教員)を割り振り ・朝から学習するためのレディネスを高めるねらい ・担任、副担任の業務分担(担任業務の軽減) <p>D 教員力と授業力の向上 ☆提案(4月)→実施(6月~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学月間の廃止と新たな授業力向上研修の導入 ・面談力向上のための研修(若手教員へのノウハウ継承) ・若手教員のためのビデオ教材作成 ・より生徒主体の行事運営へのシフトチェンジ 	<p>ICT機器活用頻度の増加 (H29実績を上回る)</p> <p>授業アンケート結果の向上 (H29実績を上回る)</p>
<p>中期的戦略</p>	<p>A 学力格差解消 自己実現支援</p>	<p>A 土曜授業+講習の実施 ☆検討(前期)→実施(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期に2回程度実施/一部の受講者は指定 ・対象は1, 2年生全員(講習は希望者) ・目的は受験に向けた学習の契機にすること 	<p>B 講習・補習の充実 ☆検討(前期)→実施(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科で生徒のニーズに合った取組を検討 ・Aの取組とリンクし相乗効果期待 ・外部講習の有効活用 	<p>補講・補習参加生徒数の増加 (H29実績を上回る)</p>
<p>A カリキュラム改編に向けた基本方針の策定 5名程度の教員からなる基本方針策定委員会を新設(5月)→策定完了(年度末)</p>		<p>B 校内組織の整理と業務改善 安全衛生委員会と行事制度検討委員会が共同で素案作成(7月)→施行(H31年度)</p>		

生徒の希望進路実現のためのスキーム

H30.4.6 職員会議資料

課題番号	事業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	後期
①	A 生活時間調査	要領提案 (運) 意見募集 (職)	意見集約 (運) 報告決裁 (職)	実施①		実施②		実施③	12月に④、2月に⑤を実施
	B 生活時間活用法 見直しキャンペーン				① A 調査分析でき次第情報提供+啓発活動を実施 (7月、9月文化祭後、1月)				
②	A 宿泊学習の改善	73期生実施	73期生総括 (1年)	行事制度検討委で方針案作成			方針提案 (運)	意見募集 (職) 意見集約 (行) 報告決裁 (職) →74期生計画	
	B 考査の目標と 成果の公表 (生徒)	要領提案 (運) 意見募集 (職)	意見集約 (運) 報告決裁 (職)	実施① 前2中間		実施② 前期末		後期も同様に実施 学習教育課程委員会で検証→H31	
	C 考査の目標公表と 採点結果の講評 (教科)	英語科の実践を情報共有 (教科主任会議)		国数理社各教科会で情報共有の上導入を検討→適宜導入→導入した教科は効果検証 (総括) 各教科の総括を年度末に学習教育課程委員会が取り纏めて職会報告					
	D 保護者への アプローチ強化	学年に検討を依頼 (運)	(a) 講演会等の親子同時開催: 新規実施や日程変更は学年から運委に報告 (b) クラス懇談会: 学年毎で実施の可否を判断 (本年度実施が困難な場合 H31 年度に向けて検討)						
	E 夢を見つけ志を高める講演会等					事業内容提案 (運) 意見募集 (職) 意見集約 (運) 報告決裁 (職)		実施	当該学年で検証→H31
	F ロングラン勉強会で卒業生活用								継続実施 担当首席が総括→H31
③	A 1年教室にプロジェクター設置				承認 (PTA 総会)		工事	教員向 説明会	使用開始
	B 朝のSHR改革	73期生実施							年度末までに学習教育課程委員会が総括 →H31
	C ノークラブデーの完全実施など	実施状況調査 (生指)	調査結果と分析報告 (運)	新ルール案作成 (生指)			意見募集 (職)	意見集約 (生指) 報告決裁 (職) 周知期間を経て H31 から実施	
	D 教員力と授業力の向上	要領提示 (運) 意見募集 (職)	Lunch Time Meeting① (教員有志と生徒会執行部)	授業研修① 面談力研修	VTR 教材完成			LTM②	11月に授業研修②
④	A 土曜授業+講習	素案提案 (運) 意見募集 (職)	意見集約 (運) 報告決裁 (職)						
	B 講習・補習の充実	教科会 (A案を踏まえてあり方検討)		教科会 (対策の具体化)	準備 (生徒への周知、講座決定等)			実施	

A カリキュラム改編基本方針策定	基本方針策定委員指名	第1回会合 (基本情報共有)		教員アンケート実施		第2回会合	会合2回 → 年度末に方針案提示	
B 校内組織の整理と業務改善		安衛委・行事委合同会議①	行事委①	素案提案 (合) 意見募集 (職)	意見集約 (行)	行事委②合同会議② → 報告決裁 (職)		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	後期